

# 支える会通信

No. 81

調布を耕す会を支える会

事務局/〒182-0024 東京都調布市布田 3-20-1

TEL 042-486-1022 & FAX 042-486-0232

## 小林さんのインド紀行 << 北インド編 >>

こんにちは。カフェ大好きで日曜日アルバイトしている小林直弘です。大変喜ばしいことに、この度支える会通信で連載させて頂く運びになりました。ありがとうございます。稚拙な文章で恐れ入りますが、どうか最後までお付き合いください。

前回、南インドは北に比べて秩序があり、清潔観溢れるという話をしました。今回はその対極にある北インドを取り上げます。その中でも、漁師町として有名な「プリー」という町でお祭りに参加した話を書きます。

プリーは南インドのような、綺麗な観光地ではありません。生活の場です。漁師たちが海岸付近に掘っ立て小屋を建て生活しています。裏路地には魚の死骸や食べかすが放置され、それを犬や豚が漁ります。その光景は少々不気味です。

私がこの漁師町に来た理由。それは、ホーリーというお祭りに参加するためです。このお祭りは毎年3月頃、春の訪れを祝うために色水を掛け合うお祭りです。ヒンドゥー教のお祭りなので、主に北インドで行われます。(南インドはキリスト教です。)中でも、プリーのホーリーは激しいことで有名です。私はその激しさを求めてプリーを訪れたのです。

激しさの背後には、インドのカースト制度(身分制度)があります。実はカースト制度において漁師は下位身分です。ヒンドゥー教は殺生が禁忌なことを考えれば、察しがつきます。しかし、お祭りのときはこのカースト制度が緩くなり、ホーリー当日は誰にでも色水を掛け合うことができます。

祭りはまるで嵐でした。当日街へ出ると「ハッピーホーリー」と叫びながら子供たちに色水をかけられました。大人たちはもっと過激で、原料のカラフルな粉を直に顔へ塗りたくってきます。なので、私も道行く

人に粉を塗りたくりました。海岸近くのプールではダンスホールさながらで、音楽に合わせて



写真：ホーリーの様子

粉まみれでズブズブになった大人たちが一心不乱に踊っていました。

森絵都は『カラフル』という小説で人生を色に例えて「この世があまりにもカラフルだから、ぼくらはみんないつも迷ってる」と書きました。これは豊かな国の悩みだと思えます。発展途上国インドの場合、ホーリーの日だけは自分の色を忘れられる。忘れるくらいにカラフルに染まるのです。その光景は生命エネルギーが爆発したかのようでした。

### ほう&れん&そう畑

#### 【2017年暑気払い報告】

8月5日(土)、50人を超える方々が参加。

久しぶりに顔を合わせる方もいて「元気でしたか」「最近どう」などの言葉からはじまり楽しい会話がそこかしこで 生ビールを片手に暑い夏を吹きとばす笑い声が。差し入れもして頂いてお料理もたくさん。

今年は夏合宿の映像に加え日頃のメンバーの一日の生活が上映され、活動の雰囲気が分かりました。あっという間の2時間半でした(A&T)。



#### << 2017年 2018年度新役員担当報告 >>

会長/舟山佐智 副会長/天田進二 会計/荒川美由紀 書記/清野敦美 広報/寺島光子  
監査委員/渡辺和子、小山嘉子

☆ありがとうございます☆

#### << 会員名紹介 >> \* 敬称略、順不同

2017年6月16日~2017年8月17日に新規継続で会員になって頂いた方々です。ご協力に感謝致します。

【正会員】片山芳城 片山美津留 福地秀子  
福地博 森戸基之 森聖子 岩本康 岩本里美  
川崎千晶 川崎春枝 川崎静 川崎威  
川崎誠 萩生田瑞穂 住吉早苗 清野豊広  
清野敦美 清野里美 大澤靖史 大澤裕子  
大澤和広 大澤朋代 山本洋子 松村正夫

【個人賛助会員】白木幸子 小川貴久治 小川美和  
松山潤一 清野敏 清野とよ子 森分陽子

#### 【サマー募金】

原郁子 吉田真紀 吉田香織 福地秀子 福地博  
原良男 森戸基之 長谷川廉 安藤保幸  
安藤光子 亀田陽子 中嶋勝夫 川島明美  
伊藤正子 荒川美由紀 中村紘子 小野勝志  
小山美鳥 野中進 森聖子 荻窪貞明  
山本穎子 高橋満子 村岡汎子 細谷久美子  
高井彬 関谷裕子 亀田隆弘 柏倉五郎 渡辺千尋  
渡辺栄 渡辺健二 川崎千晶 川崎春枝  
平田美智子 渡辺信綱 堀美子 堀政栄  
清野豊広 近田眞代 井門敏子 島崎喜一  
島崎美代子 石井和男 菊池亜美 松村正夫  
大庭貞江 細谷紀子 柏和男 天田進二  
山口征子 三田恵美 浅海圭子 角瀬敬子  
荘司和代 石坂寿子

**サマー募金 合計 280,000円**